

# 文化高知

2010年5月 NO.155



「今日、また明日」 大崎裕子

〈もくじ〉

新しい公共の担い手へ ～NPO奮闘の10年～ .....	山崎水紀夫	2
ふるさと、高知にて .....	阿部知暁	3
第20回高知出版学術賞を審査して .....	中内光昭	4～5
四国八十八カ所へんろ小屋プロジェクト .....	歌 一洋	6～7
アパラチアン・トレイルーアメリカの伝統を高知に .....	小田浩睦	8～10
鉄道っておもしろい!(2) .....	大内雅博	11
言葉の現場から21 「舞姫」のなぞを読み解く .....	広井 護	12
高知市文化振興事業団 3月～4月の事業から .....		13
風俗歳時記・風伯 .....		14～15



# 新しい公共の担い手へ

～NPO奮闘の10年～ 山崎水紀夫

阪 神・淡路大震災の発生した平成七年は日本のボランティア元年と呼ばれている。一三〇万人とも言われるボランティアの活躍が復旧の大きな原動力となり、被災され

た方の大きな心の支えとなった。これを機に、営利を目的とせず公平性にも縛られない柔軟な市民組織が、新しい公共として、社会の一翼を担うことが豊かさの実現には不可欠と認識され平成十年に特定非営利活動促進法（通称NPO法）が成立し市民活動を支援する形が作られた。その流れを受け、高知市でも「市民活動サポートセンター」（以下、サポートセンター）設立準備会が立ち上がった。しかし分野別に活動を展開してきた人の集まり故に流儀の違いや遠慮があったのも事実。そこに平成十年の「98高知豪雨」が襲った。高知では初めてとなる災害ボランティアセンターの運営を通じて互いに信頼が芽生え、ネットワークが広がりNPO高知市民会議の中核メンバーもこの頃に形成された。

福祉などの分野別事業を展開していたが、日本NPOセンターは我々のような組織は中間支援組織だと言う。チュウカンシエンって何の中間？と混乱したが、市民が活動しやすい仕組みを作り、要望ではなく提言をしていくことと理解。以後、組織運営の事業に軸足を移すなどするも、次から次へと課題は降りかかる。しかし、気がつけば公設民営型センターのお手本として、協働の成功事例を紹介した出版物にも取り上げられてからは、全国からの視察が相次ぎ、地方の中間支援組織としては高い評価をいただいた。

「協働」という言葉が市民権を得たのもこの頃で、高知市の担当課と共通の目標を持ち、共に汗をかいたところが評価されたようだ。そうした評価をいただいても、経済的指標では測れない「もう一つの豊かさ」の担い手としてNPOが社会的信頼を獲得するにはまだ道は半ばである。NPOの組織基盤の弱さは解消されず、マネジメントにも課題は多い。特にNPOの財源不足は深刻で、職員の雇用もままならず、それがNPOの安定性を阻むという悪循環に陥っている。寄付文化の乏しい日本では妙薬も見つからず、目下、資金調達の仕事みを模索するこ



防災意識の啓発・阪神淡路大震災の追悼イベント

## ふるまゆ、高知にて 阿部知暁

今年三月、高知大丸で個展を開いた。ふるまゆの高知で作品を発表するのは、十八年ぶりだった。

私は、ゴリラを追い求めて世界中の動物園やアフリカのジャングル、湿地を訪ね、絵に描いている。「なぜゴリラを描くのか？」と、さまざまな人々に聞かれる。花や風景なら、「なぜ」と聞く人も少ないだろうが、とにかくよく尋ねられる。でも、好きだから仕方ない。気がついたら、描き続けて二十五年になってしまった。

私にとって、ふるまゆとは今まで、あまり居心地のいい場所ではなかった。

父、濱口富治は前衛土佐派の画家であり、高知の洋画壇で大きな存在でもあった。父からは「絵を描くな」と言われたし、描けば、他人から「お父さんに描いてもらって良いわね」と言われ、くやしい思いをしたこともある。

私がゴリラを描き始めた時、父は「いいのか？ そんなテーマで。」と

でも難しく、人に理解されないかもしれないぞ」と忠告してくれた。でも、いったん決めたら動かない私に、「やるからには、世界中に知られるゴリラ画家になれ。やりぬけ」と話したきり、その後は何も言わなくなった。

「何度も何度もページをめくって、この絵本を手放さないですよ」 「私、ゴリラさん大好き。この絵本描いた先生に会いたかった」 そんな親子が、わざわざ会いに来てくれたのだ。

「世界中に知られる画家になれ」という父の言葉は、まだまだ実現できていないとは思えないが、小さな子どもたちに私の気持ちが伝わっている。そのことに、素直に感激した。「ありがとう」という感謝と、「心のこもった作品を、これからもゆっくり、じっくり描いていきたい」という決意。ふるまゆと高知にて、心からそう思ったのだった。

(あべちさと／画家)



あべちさと



あべちさと



あべちさと



# 高知出版学術賞を審査して

中内光昭

二十回を重ねた本賞の、本年度の応募作品数は十四点で、例年にくらべるとかなり少なかった。人文系五（昨年八）、社会系四（一六）、自然科学二（二）、医学系〇（三）、総合、その他三（四）である。この減少傾向は、あるいは、現在地方の大学が置かれている厳しい現実を反映しているのかも知れない。

審査は、八名の審査委員により行われた。第一回の審査委員会で選出された六名のそれぞれを三名の委員が精読し、寄せられた講評をもとに第二回の委員会で討議し、最終的に満場一致で次の三点が選ばれた。なお、これらに序列はついていない。

## 末延芳晴著 「寺田寅彦 バイオリンを弾く物理学者」 平凡社刊

本書は、寅彦の生きざまと、その根底にあった「音楽を愛する心」との関わりあい、実証的に検証した

ものである。

寅彦が、独創的な物理学者であると共に、エッセイストであり、俳人であり、音楽愛好家でもあったことはよく知られている。著者は、寅彦の著作や手紙、さらに多くの関連文書を丹念にひもどき、音楽との関わりが、寅彦の物理学者、文人としての生きざまにどのような影響を与えたか、推理を交えながら考察している。その結果、寅彦が様々な分野に「越境」して活躍した背景には、彼の類稀な音楽的感性があったことを明らかにしている。

本書は、タイトルを一目して、バイオリンや物理学中心の本かと早合点する人がいるかも知れないが、内容は、音楽を軸に据えながら、寅彦の生涯、生きざまを、先祖にわたってまで追跡したもので、立派な寅彦の伝記と言える。寅彦の音楽的能力が、彼をとりまく人間環境の中で、いかに涵養され、発揮されたかが、

生き生きとした筆の運びで展開されている。

寅彦の連歌への愛着と理解を寅彦独自の音楽性として捉えたり、寅彦が病床で夜明けに暖房スチームに蒸気が通り出す時に出る音にも関心を示しているところにも「音楽性」を見出すなど著者らしい鋭さが見られる。

大変読み易い文章で、随所に著者の音楽に関する関心、知識、理解が示されていて、ミステリーを読むような面白さもある。寅彦の音楽に対する感性と、筆者の同じく音楽に対する感性が、共鳴してでき上がった本と言えそうである。

## 井出幸男・公文季美子著 「土佐の盆踊りと盆踊り歌」 高知新聞社刊

盆踊りはそれぞれの地域の歴史や住民の生活と深いつながりを持ちながら伝承されてきた。したがって、

盆踊りは民俗学にとって貴重な文化財と言える。この盆踊りも、他の伝承行事同様、地域の人口減や高齢化につれ衰退の道を辿っている。著者らによると、高知県下の盆踊りの記述は、市町村史などには散見されるものの、県全体での記録は存在しないようである。

本研究は、著者たちが十六年にわたり県下五十数カ所の盆踊りを現地取材、記録、歴史的な考証を加えたもので、それぞれの由来、歌詞、離子ことば、服装、踊り等を克明に記録し、関係の地方史なども参照して考察したものである。

かつて、庶民は先祖伝来の口説き歌や関連の地獄極楽絵から「生きる術」を学ぶと共に、踊りの季節は娯楽や逢い引きの季節でもあった。本研究では、踊りを一連の盆行事の中に位置づけ、踊りを、踊られる「場」と関連させて記録している。このように、盆の行事と生活との関連につ

いても考察の枠を拡張、土佐の盆踊りの総体を把握しようとした点が高く評価された。

盆という盛夏に、研究のためとは言え、十六年の長きにわたり現場に赴き調査を継続した志の強さには敬服する。

本資料は、土佐に限らず、今後の盆踊り研究に寄与するところ大である。

るが、今後、他県の資料等とも比較類型化し、総合的な研究に発展することを期待したい。

## 大西正祐著 「二人の特攻隊員」 高知新聞企業刊

本書は、著者の母校である旧制中村中学校出身の二人、野並哲さんと

宮川正さん、が神風特攻最初の犠牲者となった事実を切っ掛けに、同校から同時に土浦海軍航空隊に入隊した四名の軌跡を縦軸に、国民を「特攻」に駆り立てた狂気の時代を横軸に、「高知」を中心にして、超国家主義体制や戦争の実態を緻密に採録したドキュメントで、高知県での「特攻」に関する唯一の資料集である。

## 「土佐の盆踊りと盆踊り歌」



## 「二人の特攻隊員」



一連の海戦や軍の対応、司令官の挙動、当時の国家観、人命観、特攻作戦の成立過程などを丹念に調査し、分かり易く記録している。高知県下での軍事展開についても広く調査され、高知海軍航空隊の練習機「白菊」が特攻に使われたことについても詳しい記録がある。

骨組みが大きく、描写が具体的で、当時の状況が生き生きと迫ってくる。大変重い内容であるが、記述は終始ドキュメントの作法を守っていて、淡々とした筆の運びがかえって読者の心を打つ。

特攻賛美でも、「犬死論」でもなく、貴い犠牲を再び「だまされぬ」社会や自己づくりの糧とすべきである、という高い志が見られるが、本書は立派にその役割を果たしている。関連して、戦後の資料もよく調べ、特攻作戦の発案者が、戦後「あの作戦（白菊）特攻」は試験特攻だったんだ。西日本の練習機百機を突っ込ませて、どれだけやれるか成功率を調べたんだ」とぬけぬけと言っていることを紹介しているが、まさに彼等の人命軽視を示す貴重な「証言」と言えよう。

なかうちみつあき／第二十回高知出版学術賞審査委員長





八十八カ所を巡拝するお遍路さんが休憩・仮眠する小屋を四国の遍路道沿いにつくるプロジェクトを二〇〇一年に始めました。十数年で八十九棟を計画し、現在、四十棟が完成しました。

私はお遍路さんに子どもの頃から馴染み、原風景にもなっています。徳島県海陽町で生まれ育ち、幼少の頃は、家の玄関先に立って拝むお遍路さんにお米などをお接待していました。

二十九歳のとき、大阪市内に建築事務所を開設。仕事で帰郷するたびに見かける白装束の姿が気になり、尊いものを感じていました。子どもの頃から聞き慣れていた「お大師さん」という称号が、「人間 空海」だということを後になって知りました。

空海が八十八カ所を開創したこともわかり、興味を持ち始めました。大衆を導き、救済し、一宗教人を超えたスケールの大きな人物像にますます魅かれていきました。

外国に旅することも増え、旅先では人が生きている姿や生活に特に目を向け、異国で感じたのは、祈りの形は国や地域によって異なり、多

光、風、土、におい、音などを五感で感じるができること。

地域の風景になじみ、新たな景観を生み出せるかどうかポイントになります。周辺の地形、建物、樹木、材料、方位、太陽などを検討した上で、形を考える。地域に長年にわたって受け継がれてきた暮らしの中の慣習、産物や、祭りなど人の心を育ててきたモノ、コトが文化である。これもデザインに反映される。空海にまつわる物語や精神を形にする場合もあります。生誕の地（香川県善通寺市）、聖地（和歌山県・高野山）へ思いを向けるようなつくりもあります。閉鎖空間は原則として設けません。このように様々なことを考慮して地域、つくる人たちの希望にかなうように、物語を構成し、設計しています。

したがって小屋の形は当然、一つ一つ違ったものになります。おのこの小屋から物語を感じて、安らぎのひとときを過ごしていただきたいと願っています。

二〇〇六年に私のプロジェクト「四国八十八カ所へんろ小屋プロジェクト」を支援する会が四国四県の知事を顧問に、数十人の発起人で発足しました。現在会員は三百人



10号へんろ小屋 宿毛

35号へんろ小屋 土佐清水



13号へんろ小屋 佐賀



28号へんろ小屋 松本大師堂



33号へんろ小屋 宿毛



05号へんろ小屋 蒲原

# 「八屋プロジェクト」

89棟の小屋づくりに思いを込めて 歌一洋

様であるということ。しかし、どの国であろうと、祈りは人間が生きる根源的なものであるということでした。

四国の遍路に目が向き始めたのは二十年ほど前のことです。八十八カ所の霊場を巡拝し、しかもそれは循環しています。さらに巡礼を支えるお接待という形式を含め、遍路を世界でもたぐいまれな貴重な祈りの文化だと思ふようになりました。そして、お遍路さんのために何かできないか、という思いが漠然と生まれ、お遍路さんが休む所があればいいのに」という徳島の人の一言が耳に入りました。小屋であれば仕事柄、自分にもつくれるのでは、と気づきました。

こうして、長い間、遍路文化に関心を持ち続けた思いの結果が少しずつ醸成し、自然にこのへんろ小屋プロジェクトに結びつきました。十数年ぐらいいでできれば、という程度の漠然とした思いでした。

つくり方は、基本的に地元の人々のボランティアによります。子どもからお年寄りまで、できるだけ多くの人が自由な気持ちで参加してもらおう。土地、建築材料、資金

弱、各県の支部長が活発に尽力されています。高知は沖野さんという方が支部長をしてくださっています。

高知は四県で最も多い十七棟の小屋が完成し、そのうち十一棟は幡多郡に建てています。これは高知県人のおもてなしの気持ちの表れだと思えます。また、県西に集中しているのは地域の方々、市町行政の理解と協力、地元ロータリークラブの資金提供力、幡多信用金庫の援助のお陰です。信金からは現在まで五棟の小屋の資金提供を受け、今後も数棟建設の協力をしていただける予定です。

香美市のへんろ小屋二十八号松本大師堂は地域の女性の尽力によって、八百五十人からの寄付が集められました。古くからの大師堂を建て替えて、建物の前がお遍路さんの休憩や地域の人たちのたまり場とし、奥に大師堂を設け、一体化させました。完成後は地区の人たちのふれあいの場となり、お遍路さんをお接待されたりと、活発に利用しています。

完成した四十棟の小屋は形、大きさは様々で、建築費はゼロ円から数百万円以上を費やしたものもあります。立派な建物をつくるのが大切なわけではありません。小屋はあくまで

を提供してくれる人、資金を集める人、呼びかける人、くぎ一本打つのもいい。個人ができる範囲で無理なく参加し、心と力を合わせて共につくりたい。この過程にも、大きな意義があります。もちろん義務でもなく、急ぐこともありません。完成までに二年余りもかかった小屋、数年前に設計が完了し、着工できていないものもあります。

数年前からは、市・町の行政、団体、信用金庫、ロータリークラブ、コンビニエンスストアからも、積極的に建設資金援助など、様々な方法で協力をいただいています。

建築材料は、地元で容易に手に入り、経済的なものを使います。間伐材や、瓦、竹、石、土なども用いています。参加者や資金などを聞いた上で事情に合わせて設計をします。費用がない場合は、建築職人に頼らずに一般の人たちでつくり上げた小屋もあります。

小屋の設計上のキーワードは、元氣、風景、土地、文化、空海、物語です。

元氣とは、魅力的な外観も必要ですが、大切なのは内部です。求められるのは、休んでいるとき、心地よい「氣」が流れ、包み込まれるような落ち着きと元氣が出る空間。景色、

方便・手段であり、目的は世界でまねな遍路文化の継承です。そして、人と人の支え合い、ふれあいであると思はれています。

辰野和男著「歩き遍路」によると「お遍路の文化は、いままでどちらかというと、伝統的なものを守るという形で議論されてきた。しかし、歌さんがいいだし、多くの人の参加で実りつつある『へんろ小屋』運動は、新しいお遍路文化を創造する運動だと思ふ」。

さらに、プロジェクトの根底には「現在の風潮に異議を唱える」という思いがひそかにあります。人と人と自然のつながりの喪失、自然の摂理に逆行する価値観は、社会と地球環境の崩壊を招くでしょう。

より早く、多く、大きくという価値観から、よりゆっくりに、少なく、小さくという観点へ。経済最優先の呪縛から、心の成長に影響を及ぼすモノやコトに目を向け、心の豊かさにつながり、僅かでも社会の光明になれば望外の喜びです。

緑豊かな四国、人のこころ豊かな四国を願っています。

（うたいちよう／歌一洋建築研究所）



# アパラチアン・トレイル

小田浩睦

## アメリカの伝統を高知に

今年三月、レクチャーコンサートシリーズ「World Music Journey vol.4」民衆音楽が大衆音楽になるとき」をかるぼーとで開催しました。プロードキヤスターのピーター・バラカンさんを進行役に、渡辺三郎、有田純弘の演奏で、アメリカ音楽の源から大衆音楽の誕生・発展に至る歴史を、核となる楽曲を紹介



介しながらたどるといふ催しです。満員の熱心な聴衆の方々と演奏に加わった地元ミュージシャンの熱演で、コデーネーターとして、また演奏者としての私にもとても充実した企画となりました。

### 高知はアパラチア！

コンサートの翌日、高知市柴巻の、龍馬が通ったという田中良助邸の裏にある八畳岩に登りました。そこから高知市内を望んでみると、厚い霧に浮かぶ山々、その向こうには晴れた日には太平洋が見える。龍馬も見た景色だそうです。この景色を見るなり、同行した音楽雑誌編集長は「高知はやっぱりアパラチアやな」。

北アメリカ大陸の東部にアパラチア山脈という二千六百キロメートルにわたって南北に走る、平均標高千メートル程度の山並みがあります。開拓時代の人々にとっては西部へ向

かうために最初に越えなければならぬ難関でした。中には越えられず山の中で生活するようになってしまった人たちも多くいます。本来の「アメリカン・ドリーム」とは、この山脈より東のプランテーションで小作農として働き、金を貯め、アパラチアを越えて西に進み、自分の土地を得て自作農になることだったのです。

そんな険しい山々は一方で「オルモスト・ヘブン（＝ほとんど天国）」とジョン・デンバーの「カントリー・ロード」に歌われているブルリッヅ山脈という名でも呼ばれます。それは、遠方から見た時に青くかすみがかかって見えることから名付けられた風景です。そして、この地域には、ヨーロッパから渡ってきた文化が今も色濃く残っています。

峻険な山々は人の往来を阻害する、しかしまた、豊かな文化の温床

となる。どこかにも同じようなことが言えそうですね。

### アメリカ民衆音楽

映画「タイタニック」の中で、ケルト音楽の演奏にあわせてみんなが踊るシーンがありました。ヨーロッパからアメリカに渡った人々とともに、あのようにして音楽も新大陸へ渡っていきました。

厳しい開拓の生活を癒す手段として親しまれ、しかも、黒人をはじめいろいろな人種の音楽を吸収して発展してきました。その昔、黒人奴隷は白人たちの娯楽のために演奏を奉仕する役目も負わされたといいます。

黒人たちが最初に手にした楽器はおそらく、西アフリカから持ち込んだバンザ／バンジャーなどと呼ばれる、ウリをくり抜いたものに棒を差し込んだ楽器と、農園主らから与え

られたフィドル（バイオリン）だったでしょう。黒人の持つリズムがヨーロッパの伝統音楽、特にケルト系のフィドル音楽と出会ったのです。言い換えると、アパラチアに吹き溜まっていた貧しいケルト系の音楽と、プランテーションに押し込められていたブルースが出会い、アメリカン・ポップが生まれたのです。

### 民衆音楽から大衆音楽へ

アパラチアの山中で細々と伝えられていた音楽が、突然、一九世紀の後半のレコードの出現で、ヒルビリーと名付けられ売り出されます。ヒルビリーが売れる、と気づいた業界はその後、スコッツ・アイリッシュ系のメロディーやフィドルを主役に、折からの西部劇映画ブームともあいまってカウボーイ・ソングを売り出します。一九三〇年代のラジオの登場でカントリー・ミュージックと名を変え、商品としての音楽に変わっていったのです。

これから、ヒルビリーをアフロ系のリズムで揺らすことを意味するロカビリーが誕生し、ロックンロールが造られていったのです。端的な例を挙げると、あのエルビス・プレスリーのデビュー盤のB面「ケンタッキーの青い月」はビル・モンロー作

のブルグラスの曲のリズムを変えたものでした。

### ブルグラスと日本のフォーク

さて、そのブルグラス。映画「俺たちに明日はない」でボニーとクライドが逃亡する時に「フォギー・マウンテン・ブレイクダウン」が使われて以来車の逃亡シーンや田舎の場面によく使われます。高知では酒造会社のカッポのCMでも使われていたので、あのバンジョーの音には馴染みがある方もいるかもしれません。

アパラチア南部の伝承音楽をベ-



スにして演奏していたビル・モンローのバンド、ブルグラス・ボーイズに一九四五年末にアール・スクラッグスというバンジョー奏者が加わったことで演奏形態に革命が起き、整理され発展してきたアコースティック音楽です。演奏にはギター、ウッドベースの他にフラットマンドリン、フィドル、5弦バンジョー、ドブロ（リゾネーター・ギター）など特徴のある楽器が使われます。これは、実は七〇年代の日本のフォークソングでよく使われた編曲の編成なのです。

### 出発はフォークソングから

私も日本のフォークソングブームののって中学二年生の時にギターを購入しました。かぐや姫、風、長瀬剛等のアレンジのルーツを探るうちに、アメリカの音楽、特にブルグラスに到達し次第に傾倒するようになったのです。かぐや姫のライブ盤ではギター、バンジョー、ベースの編成で演奏されていたり、長瀬剛の楽曲にはカーター・ファミリーの影響が色濃かったりと、知れば知る程この種の音楽が面白くなりました。

高校二年でマンドリンを手に入れたから神戸のライブハウスで演奏を始めた。大学時代の夏休みには楽器を担いでアメリカ南部を放浪し



ました。この頃出会って仲良くなった現地のミュージシャンが、今では出世して人気バンドで活躍しています。同じ頃、徳島ブルーグラス・フェスティバルの立ち上げに協力し、九〇年にはアメリカのバンド、バージニア・スクワイアーズの来日ツアーを主催し、かつロードマネージャーとしてツアーをともしました。

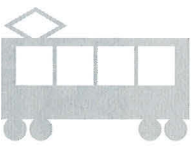
研修医になってからは音楽から離れていましたが、九四年に四国山地を越えて高知に転動してきた時、現在のバンドメンバーと出会ったので



# 進化する 路面電車

—地下鉄になったり新幹線にもなる?—

大内 雅博



モーターゼーションの進行により邪魔者扱いされている路面電車の路線網は、昔前まで縮小傾向にあった。わが国のみならずヨーロッパでもそうであった。

近年、エネルギーや環境問題解決のため路面電車が見直され始めてきているのは大変喜ばしい。その先鞭をつけたのはもちろんヨーロッパである。

地平面を走るから、または自動車



ストラスブール中央駅の路面電車：地下4階の駅に発着

の道路とスペースを共有するから路面電車と呼ばれているわけである。やや出来すぎの気がするが、このことは高知駅前立ち、高架のJRの駅と地平面の土佐電鉄の駅を比べてみれば一目瞭然である。

もちろん、JR線も大部分は高架上ではなく地平面を走っている。路面電車の特徴は乗車・降車の際のアプローチの短さにある。高齢化が進むこともあり、サービスの一層の充実を願わずにはいられない。

さて、既存の路面電車網を拡張しようとする、必然的に既存の施設とぶつかることが起こり得る。こういったものを専門用語では「支障構造物」と呼ぶが、幹線鉄道の中央駅がその最たるものである。路面電車が走っているのは大都市である。駅裏も駅正面のように市街地化が進み、駅を起点・終点とする交通のみならず、駅を通過する双方の行き来も活発だ

からである。そうなる路面電車も幹線鉄道と交差する必要があるが、さすがに道路と違って幹線鉄道の中央駅との平面交差は無理である。

その解決策は立体交差化であるが、高知のように幹線鉄道の方を高架化することが多い。それが少なくともわが国の「常識」である。土佐電鉄が高知駅を貫通してイオン方面に延びる気配はないが。

ところが、この常識を見事に打ち砕いてくれたのがフランス東部アルザス地方の中心都市・ストラスブールの路面電車である。地平面にある国鉄の中央駅と直行するトンネルを掘り、なんと路面電車の駅が地下にある。およそ路面電車に対する扱いとは思えないほどの大規模な、地下鉄並みの建設投資である。それだけ路面電車に対する期待が大きいのである。もちろん、プラットフォームが何本もある大規模な国鉄の中央駅の方を高架なり地下にするよりも安上がりという計算があつたことだけは思うが。

さて、鉄道利用者の究極の願いは乗り換えなしに移動することである。要するにクルマのドア・ツー・ドアの利便性に近づくことである。ただし、停車駅が多く速度の遅い路面電車で長距離を移動するのはしんどい。そうなる必然的に中央駅で幹線鉄道との乗り換えの必要が生じ

ることになる。

その問題の解決策は、ドイツのカールスルーエにあった。何と路面電車が幹線鉄道に乗り入れるのである。もちろん、路面電車の線路と幹線鉄道の線路を新たに接続させる必要があるが、二本のレールの間隔が同じであれば技術的に難しいことはない。高知に例えれば、土佐山田発JR土讃線經由・高知駅から土佐電鉄に乗り入れて県庁前に行く電車イメージである。

ドイツの新幹線・インターシティ・エクスプレス(ICE)と路面電車が線路を共有する姿は何とも奇妙に映るが、異なる役割の自動車が同じ道路を共有するのは当たり前のことである。そもそも鉄道がこれまでこういうことに積極的でなかったということがある。

（おおうちまさひろ／高知工大）  
学准教授

出発を待つ路面電車：前方のインターシティ・エクスプレス(ICE)の通過を待って同じ線路に合流



カールスルーエ中央駅で同じホームに並ぶ路面電車(左)とICE(右)

す。以後四国各地に転動しましたが、このバンドでの活動を続け、いつのまにか高知に永住することになってしまいました。それだけ私を惹きつける人々と風土が高知にはあります。まるでブルーリッジの山並みと音楽が私を惹きつけるように。

## 高知での活動

そのバンドですが、高知大学フォークソングクラブの大久保和人、坂倉豊、秋沢大助、伊賀康博が八二年に結成した「ザ・シユガーヒル・ランブラーズ」を母体とします。卒業後の活動休止、再開を経て私が加入。ドプロに小野嘉也、フィドル



## 高知へ、そして高知から

元バージニア・スクワイアーズのマーク・ニュートンと私の交流から私たちはワシントンDC近くで毎年開催されている「グラブス・マウンテン・ミュージック・フェスティバル」に二〇〇〇年に招待され、演奏しました。この時にバンド名を、現在の「ロンギング・フォー・ザ・サウスランド」(南部に憧れて)に改名しました。

〇二年に、クリス・シャープ(ジョージ・クルーニー主演の映画「オーブラザー」のサウンドトラック

の演奏バンドの一員。グラミー賞最優秀アルバム賞)が日本文化学習行脚中、彼の滞在を助けた縁で、以来来日の際に高知でも演奏していただきます。

〇三年には元リッキー・スキヤッグス・バンドのキース・リトル、その後も元ブルーグラス・ボーイズのブッチ・ロビンス、マロ・カワバタ&サミー・シーラー、昨年はマーク・ニュートンといったアメリカからのゲスト、また国内のアーティストを迎えてコンサートを催し、演奏をもにしています。

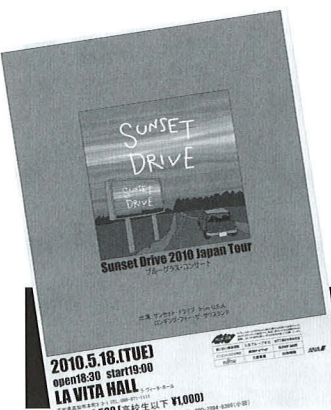
近年音楽産業の中心地ナッシュビルで、「高知」の名前を聞くことが多くなったといえます。高知を訪れたミュージシャンたちが「日本滞在中に一番印象に残ったのは高知」と言ってくれているそうなのです。その中の一人、世界的なバンドジョー奏者のサミー・シーラーはこう言います。

「故郷以外に住めるところ場所は世界で高知だけだ。山があり、海があり、美しい。そして食べ物が良くて、いい人がいる。他に何を望む?」

そして、もう一人の高知ファン、マロ・カワバタが今年も新作CDの録音メンバーを従えて五月十八日に

高知にやってきました。どんな音を聴かせてくれるのか、そして我々の演奏でどんなにインスパイアしてくれるのか。とても楽しみです。

（おだひろのぶ／ロンギング・フ  
オー・ザ・サウスランド



ロンギング・フォー・ザ・サウスランド/ウェブサイト  
**LONGING FOR THE SOUTHLAND**  
<http://www.geocities.jp/lfsbgband/>

マロ・カワバタ&サンセット・ドライブ・コンサート  
日時 5月18日(火) 18:30開場 19:00開演  
会場 ラ・ヴィータ・ホール  
入場料 全席自由 一般2,500円 高校生以下1,000円  
<http://www.kfca.jp/culturalexchange/index.html>



# 「舞姫」のなぞを 読み解く

日本の近代文学は、次の一文から始まったと言われている。

石炭をばはや積み果てつ。  
（石炭をばやくも積み終えてしまった。）

日本最初の近代小説と言われている森鷗外の「舞姫」の冒頭である。踊り子エリスを捨てて日本に帰国する太田豊太郎が、セイゴン港に停泊する船の中で回想を始める有名な場面だ。

印象的な語り出しとしても知られている。緊迫した独特の余韻が短い一文からだよい出ている。  
だが、「この余韻がいいよね」と授業でいくら語っても、生徒たちにはびんと響かなかつた。つまりうまく説明できなかつた。  
あるとき気がついた。この一文にはいくつかの「なぞ」があることに。たとえば、豊太郎はどうして、石

炭積み込み作業が終わったことに気がついたのである。生徒たちに聞いてみると、当然のように「見ていたから」という答えが返ってくる。ところが第二文を見ると、：

中等室の埠のほりはいと静かにて、熾熱灯の光の晴れがましくもいたづらなり。

豊太郎は中等室にいたのである。石炭積み込みの作業現場と豊太郎は船室の壁によってへだてられている。目で見ることができないのだ。では、どうして豊太郎は作業終了に気がついたのであるか。ここまで言う

と、生徒たちは「耳でわかつた」「あたりが静かになつたから」「音が消えたから」と答える。  
T「そうだね。積み込み作業にとむなう轟音や船員たちのかわす大声の指示や合図が聞こえなくなったからだ。すると、轟音と静寂の対

比が最初の一文には隠されているということになるね。」  
と説明すると、生徒たちは納得する。なぞを見つけて、それを解く。この読み方法は、余韻、余情といった「言外の表現」を読み解く上で有効である。

もう一つのなぞは「はや」という二文字にある。  
なぜ、「石炭をば積み果てつ。」ではなく、「石炭をばはや積み果てつ。」なのか。

T「石炭の積み込みが終わったら船はどうなる？」  
P「出港する。」  
T「どこへ向かつて？」  
P「日本へ。」

T「帰心矢のごとし、という言葉もあるけれど、日本への帰国途上にある豊太郎なら『やっと積み終わった』という方が自然じゃないだろうか。『はやくも積み終わった』と言うのはどうしてだろう。豊太郎は日本へ帰航することを？」  
P「喜んでいない。」  
T「そうだね。すくなくとも、日本への出港を待ちわびている感じじゃない。まだ読めるよ。『はやくも』』というふうには豊太郎がハッと気がついたということは、逆に言えば、それまでは豊太郎はどうだったの？」

P「ぼーっとしていた。」  
P「考え事をしていた。」

T「何を考えていたのだろうか。」  
……もちろん、エリスとのことである。豊太郎は、発狂したエリスを捨てて、日本に帰ろうとしている。  
「なぞ」はまだある。「果て」という二文字の意味だ。なぜ「石炭をばはや積みつ。」ではなくて、「石炭をばはや積み果てつ。」なのか。  
「果てつ。」という表現には、「終了」を強調する響きがある。石炭の最後の一個まで積み終わったというよう

な。  
生徒たちがよく使う「終わった」という言葉がある。例えば、「半期試験どうだった？」と聞くと、「終わった。」と答える。もうどうしようもない、という意味である。それに似た響きである。つまり、エリスとの恋が完全に終わってしまったという感慨だ。船が出港すれば、エリスのもとへ帰ることは二度とない。

① 轟音と静寂の対比  
② 物思いからのふいの覚醒  
③ 気がすまない出港  
④ エリスとのことが完全に終わってしまったという思い

一文にはすくなくとも、これだけの意味が隠されている。それが独特の余情となつてたどよい出ているのではないだろうか。  
名作の細部は侮れない。

（ひろいまもる／土佐高校教諭）

## 第26回写真コンテスト・高知を撮る 入選作品展

3月16日（火）～21日（日） かるぽーと市民ギャラリー（第4展示室）

26回目の開催となった「写真コンテスト・高知を撮る」は、「記録写真」と「I LOVE 高知」の二つの部門に合わせて106名から298点の応募があり、審査の結果選ばれた、両部門合計で特選4点、準特選16点を含む、入選作品67点を展示しました。開催初日の16日には表彰式を行い、出席した審査委員から入賞作品1点ごとに講評が行われ、会場はおおいに盛り上がりを見せました。

6日間で595名の来場者を迎え、「記録写真部門」の作品を見てその当時に懐かしむ姿や、「I LOVE 高知部門」の作品に家族が写っているのを見つけて喜ぶ姿など、それぞれに高知の今昔を感じ、楽しんで鑑賞しているのがうかがえる温かい展示会となりました。



## 高知市文化振興事業団 3月～4月の事業から

### 第62回高知市文化祭開幕行事 合唱リリック 「であいの春」

4月11日（日）かるぽーと大ホール

高知市文化祭のオープニングを飾る開幕行事の舞台公演が、まだ堀川沿いの桜の花が残るなか、かるぽーとで行われました。今年は「であいの春」をテーマに、高知県合唱連盟による合唱の演奏会を開催しました。

第1部は高知県合唱連盟所属の4団体によるステージ。創立から50年を超える老舗団体や高知県唯一の男声合唱などの各団体が個性あふれる演奏を披露しました。

第2部は、総勢約250名の合同合唱団による、合唱組曲「四万十川」と「唱歌の四季」の演奏です。合唱組曲「四万十川」は、「高知県が誇れる合唱曲を」と高知県と高知県合唱連盟が作曲家の木下牧子氏に制作を委嘱し、1999年に初演された合唱組曲です。今回は初演時と同じ、日本を代表する合唱指揮者の本山秀毅氏を客演指揮に迎えました。霧が一滴のしずくとなり、やがて大河になるまでを描いた「雲の上」と、躍動感あふれる「川狩」の2曲を、大合唱団の迫力ある演奏で楽しんでいた

いただきました。そして、幼い頃に誰もが口ずさんだ「朧月夜」「茶摘」「紅葉」「雪」「夕焼け小焼け」をアレンジした「唱歌の四季」の美しいハーモニーは、聞き入る観客をしぼしの間、遠い懐かしい思い出に誘っていました。





第62回高知市展関連事業  
美術体感イベント

# あなたもピンチ ぼくピカッ

小中高生を対象とした  
美術が好きになる体験会。  
材料がなくなりしだい終了するので  
急いで来てね!

6月6日(日) 13:00~16:00  
高知市文化プラザ 前広場ほか  
フリーパスポート 500円

お問い合わせ (財)高知市文化振興事業団 TEL088-883-5071

## 風伯

### 「前例」や「決まり」

ていると、「新聞社の決まりってなんで  
ですか?」「普通はこのような文面になり  
ますって、普通ってなんですか?」とい  
ったやりとりが繰り返されていた。  
団体の出すたかだか数行でいどの広告  
に、「普通」や「新聞社の決まり」が都  
合三回も出てきたのだとスタッフは心穏  
やかではない。電話の後では「こ

スタッフの敬愛する大先輩が亡くなら  
れた。わたしもよく存じ上げているが、  
「死亡広告」の後に、その先輩が所属し  
ていた団体名で「死亡広告」を出すこと  
になった。スタッフはその文案に関わり、  
新聞社にファックスを入れている。そこ  
まではなんの問題もなかったのだが、ス  
タッフと広告代理店とのやり取りを聞い

ういう文面は見たことがない」、そして  
こちらの「お知らせ」は「ご通知」にな  
っています。スタッフの心穏やか  
でない理由も分かります。得心もした。  
さらに、喪家の広告枠につけて載せる  
のだから、後の団体の方の広告枠には日  
付は要らないでしよう!と、いくらいつ  
ても聞き入れてもらえなかったことなど。  
「死亡広告」とはいえ、文面については  
全面的に責任を負うべきは広告主なのだ  
から、それに対して、「新聞社の決まり」  
を出してくるのは確かにいただけない。  
スタッフは納得がいかず新聞社の方にも  
直接問い合わせたようだが、結局ほとん  
どのところは「そういう前例は作りた  
くない」ために「新聞社の決まり」が出  
てきたようだった。

日付に関していえば、新聞発行日と同  
じ日付を、すべての死亡広告に入れる必  
要性があるかどうか、普通に考えれば答  
えはすぐ出てくると思うのだが。(霖)

第161回 市民映画会

## 正義のゆくえ I.C.E. 特別捜査官

捜査官にも人情がある。  
「彼ら」にも事情がある。



© 2008 The Weinstein Company, LLC All Rights Reserved.

## サンシャイン クリーニング

ローズとノラが始めた仕事は……  
事件現場のハウスクリーニング!



© 2008 Big Beach LLC. All Rights Reserved.

と き: 6月25日(金)・26日(土)  
ところ: 高知市文化プラザかるぽーと大ホール  
上映時間 (両日とも)  
正義のゆくえ ①12:00 ②15:50 ③19:35  
サンシャイン ①14:05 ②17:55  
料 金: 一般前売り1,300円 (当日1,500円)  
割引 (前売り・当日とも) 1,000円  
※学生証、長寿手帳、障害者手帳などをご持参  
の方は割引料金  
※前売り券は、かるぽーとほか市内各プレイイ  
ドおよび指定のサニーマートで販売。  
※お問い合わせ: (財)高知市文化振興事業団  
088-883-5071

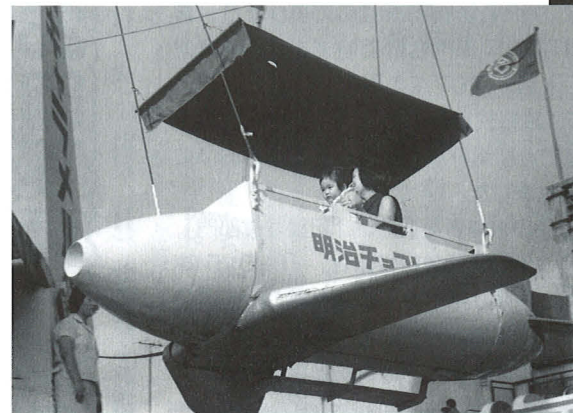
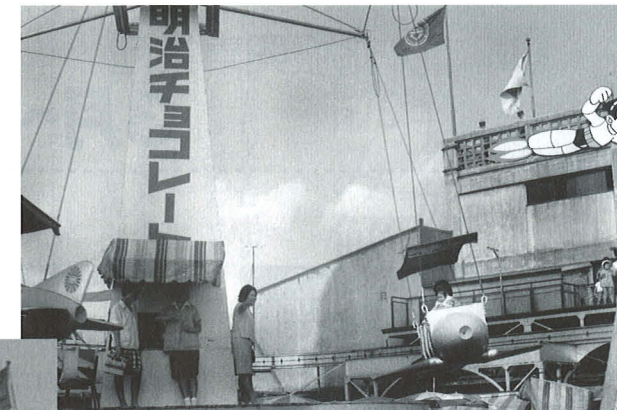
## 今号の表紙

「今日、また明日」

大崎裕子

もうすぐ三十路をむかえる。何となく不  
安だった。そんな時、子どもと暮らす機会  
があった。子どもは、何もないとしたら、子  
どもには色々なものが見えているのかもしれ  
ない。また迷っても、彼らが道を教えてく  
れる、そんな気がした。

もう不安はない。肩の力がすっと抜けた。  
(おおさきひろこ/講師)



## 高知を撮る

第26回写真コンテスト入賞作品

## 子供の国(2枚組)

(昭和40年頃 高知市)

横山 正富

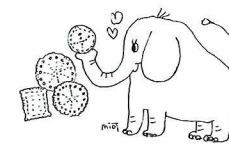
はりまや橋の土電会館ビルの屋上には、  
モノレールやヒコキなどの乗り物があり、  
子どもたちでにぎわっていました。

一枚眺めてみた。幼い頃、高知城の下  
にある動物園の象に会いに行つては  
ビスケットをあげた。長い鼻で食べる  
姿がとても好きだった。強烈な匂いが  
漂うお城下の動物園。薄暗いけれど、  
わくわくしながら母親と兄といっし  
と陳列されていた。

両親が金婚を迎えた。以前は、結婚  
五十周年の記念日には料亭にでもと考  
えていたが、不況下、そんな贅沢はと  
づくに選択肢から外れていた。代わり  
に我が家へ招待し、手作りの料理でも  
てなすことにした。食後の甘味には、  
ケーキでも…これもホールケーキだ  
と結構値が張る。結局、レアチーズケ  
ーキを初めて手作り  
することにした。  
台を作るのにビス  
ケットを量販店に買  
いに行った。ビスケッ  
トを購入するのは何  
年ぶりだろう。お菓  
子の棚を探しても、  
昔いつも買っていた  
箱はない。やっと見  
つけたのは、個包装さ  
れたビスケットの入  
った小さな箱。たつた  
種類だけ、ひっそり  
と陳列されていた。

## 「金婚ビスケット」

風俗歳時記



戦前生まれの母親に「ビスケット」高  
級品の結論を誘導した。「ビスケット」  
あったで、普通に」とあつけない答え。  
ななんだ。風俗歳時記にふさわしい  
シナリオを描いていたが、あっさり肩  
透かしを食らった。レモン風味のレア  
チーズケーキ、ちょっとほろ苦い金婚  
の祝いだっただ。

よに鼻をつまんで巡った。象にあげた  
ビスケットを自分も食べると、仲間  
になったように思えた。  
ビスケットを中学生のわが子二人  
に見せた。「これ、クッキー?」「クラ  
ッカー?」「バターと生クリームの入っ  
た高級クッキーや、アボカドやイクラ  
を乗せて食べるクラッカーは、子ども  
たちの好物。それと  
間違えたようだが、  
最後までビスケット  
の名前は出てこなか  
った。飽食の時代には、  
ビスケットはふさわ  
しくないのだろうか。  
「おばあちゃん  
の子ども頃には、ビス  
ケットなかつたよ  
ね?」できあがった  
ビスケット台のレア  
チーズケーキを親子  
三代で食べながら、

(立花香)



painting calligraphy sculpture picture design

2010



公募・無審査展

- <出品>
- 搬入日時  
2010年5月23日(日)・24日(月)  
午前9時～午後5時
  - 搬入場所  
高知市文化プラザかるぼーと  
7階市民ギャラリー
  - 出品料(1部門)  
一般1500円/学生1000円



INDEPENDENT  
アンデパンダン

- 絵画(洋画)  
日本画  
書道  
先端美術(立体)  
彫刻  
陶芸  
工芸  
写真  
ペン字  
デザイン



ART EXHIBITION of KOCHI CITY

第62回

- 開催期間……2010年5月29日(土)▶6月13日(日) [ただし、月曜日は休館]  
午前9時～午後6時(初日は午前10時開場、最終日は午後5時終了)
- 会場……高知市文化プラザかるぼーと 7階市民ギャラリー
- 入場料……前売300円/当日400円  
長寿手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・身体障害者手帳所持者、及び高校生以下は無料
- お問い合わせ……(財)高知市文化振興事業団 企画事業課(088-883-5071)

<主催> 高知市展代表委員会・(財)高知市文化振興事業団・高知市教育委員会  
<共催> 高知新聞社・NHK高知放送局・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ



かるぼーと

デザイン：橋上一好

